



認知症と車の運転

院長 長野浩志

最近、認知症の人が車を運転中に歩行者を跳ねるといった重大な交通事故の報道をよく目にするようになりました。実際、認知症の方は同年齢の健常者に比し、3～5倍自動車事故を起こすリスクが高いとの報告があります。また、認知症の方は運転中に1回以上の自動車事故を起こす確率は20～50%にも及ぶといわれています。



認知症の方は何故そんなに自動車事故を起こすのでしょうか？それは自動車の運転には、記憶、視空間認知（視覚による物の認知）、交通法規等の知識、判断力、注意能力などの認知機能が必要なのですが、認知症の方は多かれ少なかれこれらの機能の障害を伴っているからです。例えば、記憶障害のある者は目的地を忘れていたり、視空間認知機能障害のある者は反対車線を走行したりします。また、注意障害のある者は重要な標識を見落としたり、意味記憶障害のある者は標識の意味さえ分からなくなっています。

アルツハイマー型認知症では、記憶障害、場所に対する見当識障害、視空間失認などのため「運転中に道に迷う、接触事故が多い、車庫入れが下手になる、ノロノロ運転をする」などが目立ちます。最も運転上の危険性の高い疾患は、前頭側頭型認知症です。前頭側頭型認知症では、交通ルールを守ろうとしないため「信号や道路標識無視をする、わき見や注意散漫運転をする、前の車をあおる」などが見られ重大な事故を起こす危険性があります。

熊本大学の池田学教授は、家族の方に以下の6項目を特に注意して観察してもらい、こうした運転が見られたときは主治医に相談するように述べています。

- ①センターラインを越える
- ②路側帯に乗り上げる
- ③車庫入れに失敗する
- ④ふだん通らない道に出ると急に迷ってしまう
- ⑤ふだん通らない道に出るとパニック状態になる
- ⑥車間距離が短くなる



このような項目のうち、1つでも繰り返し起こすときは交通事故を起こす確率が高く運転は中止すべきです。車は「走る凶器」です。車の運転ができないと社会生活上では大変不自由なことは分かりますが、交通事故の加害者となり取り返しのつかない事態を招くよりは良いと思います。

私の想



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www.uenokoen-hospital.jp/>

E-mail

uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp

東1病棟 河津 辰徳



私が上野公園病院に入社して2年が経とうとしています。看護師になる為に、准看護学校に通いながら勤めてき

ました。初めは学校と仕事の両立ができるか不安な気持ちがいっぱいでしたが、家族や職員の方々の支えがあり頑張る事ができました。1年間勉強や実習を行ってきましたが、体調を崩してしまい休学をとるかたちになりましたが、まだ看護師になるという目標は諦めていません。

今は東1病棟で毎日やりがいを感じながら仕事をしています。ただ仕事をするのではなく、看護師さんが患者さんにどのように接しているのか、処置の仕方、急変時の対応の仕方など様々な事が間近で見学ができるのでとても勉強になります。

看護師になる事が、今までお世話になった方々に対しての一番の恩返しと思っています。これからもたくさんの方々に御迷惑をかけますが笑顔を大切に頑張っていきたいと思います。



ふきのとうだより

早いもので今年ももう一年が過ぎようとしています。12月に入り、利用者の方々とも「一年が経つのは早いね。また一つ歳を取る。」とよく話をしています。その様な話をしながらデイケアでの一年を振り返ってみると、『今年も利用者の皆さんと沢山の思い出を作れた年となったな。』と改めて感じました。年の初めには初詣に行き、皆さん思い思いに手を合わせ参拝されてた姿が思い出されます。冬から春へと季節が移ろうと共に段々と暖かくなり、大山の梅や神来町の観音桜、市内公園のソメイヨシノ、中野川周辺の八重桜と各所で皆さんと一緒に春の訪れを感じられました。夏には流しそうめんや盆踊り大会、秋にはコスモス鑑賞や文化祭、運動会と各季節に月毎に皆さんとの思い出がよみがえります。

利用者の中にはあまり長く記憶に残らない方もおられますが、月行事など色々な活動の中で、本当に生き生きと楽しんでいる表情がうかがわれています。これからも利用者の方々との一瞬一瞬を大切にしながら、健康で長生きしていただけるように職員一同お手伝いをしたいと思います。

